

議事録

委員会名	千代田区消防団運営委員会
日時	令和6年2月13日(水)14時00分～
場所	千代田区九段南一丁目2番1号 千代田区役所8階第1委員会室
諮問事項	変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか
出席者	樋口 高顕(千代田区長)、垣見裕司(麴町防火防災協会会長)、坂井 重正(神田防火防災協会会長)、大山 恵子(神田防火防災協会女性の会会長)、林 則行(区議会議員)、白川 司(区議会議員)、岩田 かずひと(区議会議員)、えごし 雄一(区議会議員)、河本 知幸(丸の内消防署長)、佐藤 睦(麴町消防署長)、岡部 卓海(神田消防署長)、千葉太(丸の内消防団長)、平位 誠一(麴町消防団長)、小林 泰夫(神田消防団長)
欠席者	吉田 淳一(丸の内防火防災協会会長)
傍聴者	0人
配布資料	1 消防団運営委員会委員名簿 2 令和5年度諮問事項 3 検討内容 4 千代田区消防団運営委員会スケジュール

議事録

(区事務局)

定刻より少し早いですが、皆様おそろいになりましたので、ただいまから令和5年度第2回千代田区消防団運営委員会を開催いたします。本日はお忙しい中、本委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本委員会事務局の千代田区行政管理担当部長をしております、中田と申します。よろしくお願いいたします。

本委員会は、議事録作成のために録音をさせていただきます。また、作成しました議事録は原則公開とさせていただきます、後日、区のホームページに概要版を掲載いたしますので、あらかじめご了承ください。

なお、本日の委員会ですが、午後2時半終了を目途に考えてございます。議事進行にご協力をお願いいたしますと幸いです。

それでは、開会に当たりまして、当消防団運営委員会委員長、千代田区長の樋口よりご挨拶を申し上げます。

～委員長挨拶～

(区事務局)

次に、各委員の紹介でございます。お手元に配付しました、資料1の名簿をご覧いただき、紹介に代えさせていただきたいと思っております。

なお、消防団運営委員会の事務局は、各消防署の警防課及び区の災害対策・危機管理課が務めます。

また、消防署の総括は神田消防署が担当いたします。よろしくお願いいたします。

次に、本日の資料を確認いたします。

まず、「次第」でございます。

資料1の「名簿」になります。

資料2の「特別区消防団運営委員会への諮問について」になります。

資料3は、諮問事項に関する「検討内容」となります。

最後に、資料4として「千代田区消防団運営委員会スケジュール」を添付してございます。

資料に不足はないでしょうか。

よろしいでしょうか。

(区事務局)

それでは、議事に入る前に、本日の出席状況をお知らせいたします。

本委員会の定数は15名でございます。現在の出席者は14名、欠席者は1名となっております。

したがいまして、「特別区の消防団の設置等に関する東京都条例」第9条の規定に基づき、委員の半数以上の出席がございますので、本日の会議は成立しております。

なお、委員の皆様におかれましては、ご発言をされる際には、マイクのスイッチをオンにするとランプが赤く光りますので、そちらをご確認の上、ご発言をしていただくようお願いいたします。

それでは、樋口委員長に議事の進行をお願いいたします。

(委員長)

ただいまより議事に入ります。はじめに、令和5年度特別区消防団運営委員会への諮問事項について、事務局に説明を求めます。

(消防署事務局)

神田消防署警防課長の亀山でございます。

まず、資料2をご覧ください。こちらは、前回の委員会でもお示した資料でござい

ます。

本日の委員会は、今年度2回目の委員会でございます。来年度も2回開催予定でございます。本日の委員会と次回の委員会で頂戴したご意見を盛り込み、答申案を策定するという流れでございます。

「諮問の趣旨」や「検討の方向性」は資料のとおりでございますが、こちらを踏まえた策定案が、資料3でございます。資料3をご覧ください。

1つ目の課題として、「消防団として変化及び成長するには」を挙げております。この課題に対する検討事項としまして、「入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策」と、「最新の技術を活用した活動環境の改善方策」の2点をご検討いただきたいと思います。

まず、「検討事項」の1つ目、「入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策」です。

「(1) 団活動にやりがいを持てる方策」として、2点挙げております。こちらについては、「若い団員同士の交流を深められるといいのではないかな」や、「同じ団だけではなくほかの団も含めて、同世代の団員と交流を持つことで刺激になるのではないかな」、また「一口に『やりがい』と言っても、世代によって異なるのではないかな」といったことを、ご検討いただければと存じます。

続きまして、「(2) 資格取得講座、各種講習や教養講座など」として、2点挙げております。こちらでは、「消防に関するような資格取得の支援」や「地域密着型の各種講習や教養講座の検討」をしてはいかがかな、ということも挙げております。

右側に行きまして、「検討事項」の2つ目、「最新技術活用での活動環境の改善方策」です。

「(1) 情報伝達のあり方(災害への出場命令や、団員間の情報伝達)」として、2点挙げております。こちらについては、「情報管理を踏まえながらも、団員の利便性が図られるといいのではないかな」という観点で、挙げさせていただきました。

続きまして、「(2) タブレット活用での消防団事務の効率化」として、2点挙げております。消防団活動の予定管理や、現状では紙ベースまたはファックスなどを使って行う報告を、「アプリなどを活用することで利便性が図れるのではないかな」ということで挙げさせていただいております。

続きまして、「(3) 各種資機材の更新に合わせた仕様変更」として、2点挙げております。資機材の更新のタイミングに合わせて、改良したり新しい資機材を導入することで、「利便性や団員の負担軽減を図る」という点で、挙げさせていただいております。

1枚おめくりください。

2つ目の課題としまして、「地域住民の負託に応え続けるためには」を挙げております。

この課題に対する検討事項としまして、「計画的な人材育成方策」と「消防団を地域

により知ってもらう方策」の2点をご検討いただきたいと存じます。

まず、「検討事項」の1つ目、「計画的な人材育成方策」です。

「(1) 経験が浅い団員への教育体制」として、2点挙げております。新入団員が活動技術を身に付けるに当たって、統一的なカリキュラムがあるわけではなく、各団に任されているのが実情であり、系統立てたプログラムがあれば、漏れや無駄がなく学んでいけるのではないかと考えて、挙げさせていただいております。

続きまして、「(2) 中核となる団員による指導体制」として、2点挙げております。現状でもベテランの団員さんが、経験の浅い団員さんに対して指導をしていると思いますが、指導の仕方がまちまちであったり、研修内容を活かした統一的な指導がなされているか明確ではない、という状況を踏まえての内容となっております。

続きまして、「(3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安」として、2点挙げております。全国的に見ますと「操法大会に向けた訓練の負担が重い」といった意見もあることを踏まえまして、操法大会に向けた訓練だけではなく、「実災害をイメージした訓練」の比重もある程度大きくして、バランスを取る必要があるのではないかと、また、実災害をイメージした実践的な訓練を行うには、それなりのスペースが必要だと考えて、挙げさせていただいております。

続きまして、「(4) 訓練効果の確認方策」として、2点挙げております。実際に「広い場所で放水訓練を行う」といったことは、千代田区のような都心ではなかなか難しいと思われれます。ですので、例えば、VR技術を活用して実災害をイメージした状況をつくり、「どう活動するか」といったことを確認できるのではないかと考えて、挙げさせていただいております。

次に右側の、「検討事項」の2つ目、「消防団を地域により知ってもらう方策」をご覧ください。

「(1) 積極的な災害活動を定着させるには」として、2点挙げております。例えば、管内に勤務している団員の場合、職場の理解が得られないと勤務中の災害出場は困難だと思われるため、挙げさせていただいております。

続きまして、「(2) 地域行事・消防団行事を通じた地域住民の理解促進方策」として、2点挙げております。地域住民の方々にとって、同じ地域に居住していたり勤務している団員さんが活躍している姿を見ることで、消防団に対する理解がさらに深まると考えて、「地域行事でのPR」や、今もやっていると思いますが、「各町会での消防団員の方による防災講話」という点を挙げております。

最後に、「(3) 総合防災教育等を通じた、児童・生徒の理解促進方策」として、2点挙げております。こちらにつきましては、幼少期の頃から消防団員の方に防災指導を受けたり、中学生の職場体験のように「消防団活動体験」を行うことで、「消防団をさらに身近に感じてもらえるのではないかと」考え、挙げさせていただいております。

簡単ではございますが、以上でございます。「ほかにもこういった方策もあるのではないか」等のご意見をいただければと存じます。

(委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

岩田委員、どうぞ。

(岩田委員)

まず、「課題1」、「検討事項」の1つ目の(1)です。「交流」ということでございましたら、あくまで提案でございますが、区全体での消防操法大会をやってはいかがかと。今は、「神田消防団」、「麴町消防団」、「丸の内消防団」で別々にやっておりますが、一緒にやって、大きめのイベントにできたらいいのではないかと勝手に思っています。

次に、(2)の資格取得についてです。1回だけの試験で終わる「防災士」のような民間資格よりは、国家資格を、とは思っています。消防団にもっと勧誘していただきたいというのがありますが。

次は、「課題2」、「検討事項」の1つ目の(1)及び(2)です。「教育体制」と「指導体制」についてですが、新人向けに一応「規律訓練」というのは、うちの団でもやっているところがあります。ですが、それが特定の人物の負担になるので、消防署の方に時々来ていただいて、指導体制とかの練習やトレーニングみたいなものも、やっていただければありがたいと思っています。

最後に右側、「検討事項」の2つ目の(2)及び(3)です。総じて、「防災訓練でのPR」とかはやっていますが、もっとPRをしていただきたいと思います。消防団が「どこで何をしているのか」、「どういう団体なのか」、よく分からない方も多いと思いますので、そこを、もっとやっていただければありがたいと思っております。

(委員長)

ありがとうございました。これについては、事務局、いかがでしょうか。

(消防署事務局)

最後のPRの件ですが、実際にそれぞれの団で、地域の行事や防災訓練などで積極的に指導していただいていると思います。ですので、先生のおっしゃるとおり、「消防団はそもそもどういう団体なのか」といったことも含めてのPRをしていけば、より身近に感じていただけるのではないかと思いますので、そういった点も盛り込んでいけたらと思います。

(委員長)

ほかのご指摘に対しても、受け止めるのかどうするのかというのを、お答えください。

(消防署事務局)

案のほうに盛り込ませていただきたいと思います。

(委員長)

ほかに、何かご意見やご質問はありますか。
垣見委員、どうぞ。

(垣見委員)

「諮問事項」として「変化する社会情勢に適応し」とあるんですが、私は、「課題1」の前に「課題0」が必要ではないかと思うんです。

現在男性の人口は、45歳から49歳が500万人で、20歳から24歳がたったの300万人しかいないんですよ。したがって、在勤はいても在住がないので、「在住の若い消防団員をいかに集めるべきか」という「課題0」がないと。

「課題1」と「課題2」に書いてあることは合っています。ただ、この課題だけをやっても若い消防団員が入ってこないで、「いかに若い消防団員に入ってもらうか」というのをやはり大きなテーマとして。

諮問されたことだけに答えればよいというのではなくて、千代田区の特に、「在勤はいるが在住が少ない」という課題においては、いかにして在住の若い消防団員を集めるのかを。

その社会情勢の変化の2つ目ですが、今日も弊社でやっていましたが、「とにかく残業を多くするな」と。それから「課長も管理職ではないんじゃないか」、「だったら残業代を払え」と。そうになると、弊社は危険物を扱っているものですから、「消防団へ入れ」と言うと、「社長、それは会社業務ですよ。だったら残業代は出るんですか」みたいな話でして。会社の社長命令で「消防団に入れ」とは、とても言えない空気なんです。

そういう意味ではぜひ、「若い、地元の在住の消防団員を集めるにはどうしたらいいか」というところを、「課題0」として加えていただければと。

また、前回もお話ししましたとおり、小学校や中学校の消防イベント大会があって、そこにサプライズでお父さんが消防団員として登場して、「〇〇君のお父さん、かっこいい」となると。いい案だと思うので、ぜひ追加で書いていただけると嬉しいです。

(委員長)

ありがとうございます。前回も、まさにその観点でご意見をいただいたと思います。事務局、いかがでしょうか。

(消防署事務局)

前回も貴重なご意見としていただいたと思います。例えば「〇〇君のお父さんは団員さんなんだね」というような、身近に感じてもらえるということも大事だと思いますので、その辺も盛り込んでいければと思います。

(委員長)

ありがとうございました。
白川委員、どうぞ。

(白川委員)

今の垣見会長のご意見に賛成です。

それで、一つ懸念しているのが、実際にどうかは別にして、消防団には「上下関係がきつい、強い組織」という従来のイメージがあることです。

若い人は、ボランティア活動については割と前向きに、積極的に参加する傾向があります。それは、SNSなどを通じてボランティア活動を自分でアピールするという、「自分探し」の中に非常に組み込みやすいというのと、あとは、就職活動で「こういうボランティアをした」というのを書けると就職に役に立つから、ということがあります。ですから、どうしても若い人を集めなければ、消防団の「フラット化」、「ボランティア化」というのは必要だと思います。

ただし、やはり人命に関わる仕事をやるわけなので、ボランティア集団にするわけにはいかないんですが、どこかで、「この組織は実はフラットですよ」という、「ピラミッド型のようにすごく上下関係が厳しくて、上が言ったことに下が従順になるような組織ではないですよ」というアピールは必要だと思います。

(委員長)

ありがとうございました。この点についても、事務局、いかがですか。

(消防署事務局)

「消防団での活動が就職活動等でPRできる」というような制度は既にありまして、その辺も東京消防庁としてはPRをしているつもりですが、例えば若い学生さん等に入ってもらいたくためには、さらにPRをしていくといいのかなと感じております。

(委員長)

ありがとうございました。ほかに、ご意見やご質問等はいかがでしょうか。
坂井委員、どうぞ。

(坂井委員)

昨年関東大震災から100年がたちましたが、以前は、毎年の地区での防災訓練を9月1日に近い、第1土曜日にやっていたんです。そのときは、私ども町会長が区から貸与されている上下のウェアを着ると、すごく暑かったんです。ですから、まして関東大震災を経験した方もほとんどおられないわけで、東日本大震災が起きた3月に変更して、しばらくやろうと決めたんです。

ですが、コロナでできなくて、昨年3月に初めてやったんです。そうしたら本当に大勢に集まっていただきました。熊本の震災もありましたし、今年は元日に大きな地震がありました。本当に、身近に感じている方は結構多いと思いますし、3月だと、まだウェアを着ていても全然暑さを感じなくて、ちょうどいいぐらいです。ですので、これからも3月にやっっていこうと思います。

今年もやりますので、神田消防団の皆さん、消防署の皆さん、よろしくお願ひします。以上、意見ではなくて、報告事項です。

(委員長)

ありがとうございます。ウェアの伸縮ですとか季節に応じたものは、消防庁のほうでも対応されていると思いますし、うちの災害対策・危機管理課のほうでも、「できる限り通気性のいいものを」という形で今こしらえていますから、そういう中で対応してまいると思います。

ほかに、ご質問やご意見はありますか。
どうぞ、えごし委員。

(えごし委員)

「課題2」、「検討事項」の2つ目の(3)のところです。

垣見会長からもありましたが、「児童・生徒の理解促進」ということで、私の息子も今小学生ですが、社会科の授業で、消防署のことや消防団のことをしっかり学ぶ機会があるみたいなんです。「通信指令室」ですか、そこからの連絡が消防署、消防団に降りて、それからどのように出動していくのかという流れも学ぶようです。

それを学ぶような機会のあるときにも、こういう体験ができるようであれば、子供たちの理解促進につながってくるのかなという気がしました。

個人的には、操法大会とか操法の訓練で、消防団の皆様が頑張っている姿を見たときにすごく感動したんです。子供たちが、そういうものも見られるような機会

を、既にあるのでしたら申しわけないですが、操法大会とかも見学できるようであればいいと思いました。

(委員長)

ありがとうございました。事務局、お願いします。

(消防署事務局)

操法大会の見学等につきましては、ご希望があれば、見ていただくことも可能だと思います。それこそ例えば、近所のお父さんが団員として出て、そのかっこいい姿をお子さんたちに見ていただくというのも、PRの方法としてはあると思いますので、取り入れていければと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

それでは、大山会長、お願いします。

(大山委員)

消防団と言いますと「消防団＝男性」という感覚になってくるんですが、私が50代のときに、うちの神保町地区は比較的、三崎町のほうに女性の方が何人もいらっしたんです。あれを見て、「私たちも入ってみようか」という話を友達として、実は受けたんです。そうしたら、私は大丈夫だったんですが、もう一人の方は体の病気が少しあったもので入れなかった、ということがありました。

私も、女性の会をやるようになってから、結構行事に参加していますが、4月の初めになると、消防少年団でしたか、小学生ぐらいの方が新しく入られる。その中には、女の子が結構いらっしやるんですね。

ですから、そういうのを含めて、このPRの仕方、「消防団はこういうところだよ」ということは、小学校での何かの行事のとき、運動会のときでもいいですし、体育大会のときでもいいです。民謡の踊りもいいんですが、こういう消防団の方の演習なんかなど、簡単にできるようなものでもいいですので、とにかくアピールをすることによって、少し女性の方も入っていただけたら、また違ったことができるんじゃないかと思ったので、今日この席に出させていただいたんです。いかがでしょうか。

(委員長)

ありがとうございます。多分「消防少年団」は麴町も神田もおありだと思いますし、そこに女の子もいると思いますが、事務局、いかがでしょうか。

(消防署事務局)

「消防少年団」と消防団がコラボして、行事へ一緒に出させていただくような機会は、今もあると思うんです。ですが、それが、少年団の子だけではなくて、地域一般のお子さんたちにも消防団をより身近に感じていただければというところもあると思います。あとは、一緒にコラボする中で、少年団の子が「大人になったら消防団に入りたい」と思えるような、そんな企画もできるといいのかなと思います。

(委員長)

ありがとうございます。
千葉団長、お願いします。

(千葉委員)

消防団の活性化に向けて様々なことが議論されていて、なかなか今のお話でも、女性が少ないとかいうご意見もあると思うんですが、今まで、この皆さんで取り組んできたこともあながち無駄ではなくて。

丸の内消防団は従来、今まで入っていた企業の方が異動されると、誰を後任で出すとか、あるいは我々がお願いに行って新たに入ってもらいたいというのが、ほとんどの流れだったんです。ですが、去年は、東京消防庁のホームページを見て、今まで全く活動に入っていなかった企業の女性の方が2人ぐらい、自らやってみたいということで入ってこられました。ホームページを見て「あっ、これを私もやってみたい」と。先ほどのお話にあったように、やはりそういったものに対する意識がすごく高まっているんです。

ですから、新しいことをどんどんやっていかなければいけないと思うんですが、今までいろいろ取り組んできたことも実り出していると思いますので、入られた女性に「どういうところに魅力を感じたのか」とか、「何がヒットしたか」みたいなことも聞き取りながらも、そういう発信をこれからも続けていくことが大事だと思い、ご紹介させていただきました。

(委員長)

本当にありがとうございます。以前ですと、専業主婦の方ですとか、あるいは自営業の方が多かったですと思いますが、今は本当に、共働き、企業にお勤めの女性も多くなって、「どうやって消防団活動と両立しようか」という中でも入っていただいている方に、「どうして入られたのか」というのをお聞きして、ぜひ研究、検討いただきたいと思います。

ほかに、ご意見やご質問はありますか。
小林団長、どうぞ。

(小林委員)

今、千葉団長も、また大山会長もおっしゃっていましたが、女性団員についてです。

「変化する社会情勢」の中に、女性活躍社会というのもあると思うんですが、区長もいくつかの「始式」に行って、女性の多さに驚いている部分もあるかと。結構女性も入ってこられていて、神田消防団の場合は下手すると男性よりも、この5年間の実績では女性のほうが多いかなと感じるぐらいでありまして。今日もちょうど、女性消防団員のセミナー受講についての通知を、団員に出すという案があったので、それをコピーして持ってきたんですが、

これからは、女性のことをやはり意識してやっていかなければいけないので、「女性消防団員同士の交流や情報交換の場を提供する」ことを、東京消防庁のほうも考えているようです。また、女性消防団員から私が直接聞いたわけではないんですが、地方から出てきたりほかの地域から来たりして、そこに移り住んだ場合に、やはり隣近所、周りに知り合いがいないという部分があつて。それならば、手っ取り早く消防団に入って、地域の方々と交流を持って、地域に入っていこうかなというような感覚もあるようですので、これからはそういう女性が増えると思っております。

それと最近、これは私の偏見で、言っているのか分からないんですが、余り職業のことを言うてはいけないと思うんですが、大学教授や歯科医師といった方は、お忙しいだろうと思って声をかけるのを遠慮していたんですが、積極的にその女性たちも入ってきてくれているという状況になっております。

ですから、少しずつ変わってきていることは事実だと、それをお伝えしたいと思いました。

(委員長)

ありがとうございました。ご意見として、事務局は受け止めていただければと思います。

先ほど、白川委員から上下関係のお話がありましたが、小林団長が今おっしゃったのは多分、一つの「コミュニティ」というか、「つながり」になっているということで、私も先日、各分団の新年会に行きましたが、非常につながっていてコミュニティが強いなど、それは女性も男性もですが。そのようなことを、ぜひ、まだ消防団に入っていない女性の方々にどう伝えていくかというところを、頑張っていただければと思います。

では、ほかにご意見やご質問はありますか。

どうぞ、河本署長。

(河本委員)

先ほど、「上下関係」というお話がございました。消防団に関しては災害活動組織で

あるということで、やはり災害現場での、いわゆる指示命令だとかが必要なので、ある程度は、ピラミッドではないんですが、そういう階級みたいなものが必要になってきます。

ただ、災害現場や訓練が終わると本当に“家族”ということで、「消防一家（イカ）」という言葉をよく使うんですが、“家族”としてやっていきますので、そこで担保できるかなと考えています。

（委員長）

ありがとうございました。ご意見やご質問はいかがでしょうか。

垣見委員、どうぞ。

（垣見委員） これも前回、申し上げたんですが。

地元、千代田区を調べたときに、圧倒的に女子校が多いんです。ですから、女子消防団員の方々に、4月のときに「部活で消防研究会をつくりましょう」というのをぜひやっていただければ、必然的に若い男性が入ってきます。

それから、出初式へ行くと分かるんですが、小さなお子さんが多いんです。あるいはキッズニアもめちゃくちゃ多いんです。

それにもかかわらず、消防の人気があるのは小学校1年から3年ぐらいまでで、6年とか中学になると、「消防をやっているの？ダサいな、お前」となってしまって。そのギャップを埋めるのがいいんじゃないかと思っていますので、ぜひキッズニアや出初式の人気ぶりを、ぜひつなげていただければと思っています。

（委員長）

貴重なご意見をありがとうございました。こちらについても、事務局はしっかり受け止めていただいて、検討いただければと。

（垣見委員）

ぜひ、女子校に勧誘をしてみてください。

（委員長）

ありがとうございました。ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、以上で「諮問事項について」を終わります。次に、今後の審議日程について、事務局に説明を求めます。

（消防署事務局）

資料4をご覧ください。本日の委員会は令和5年度第2回でして、令和6年度第1回

の委員会が今年7月、そして第2回の委員会を来年2月に開催予定です。

最後の令和6年度第2回の委員会で、「千代田区消防団運営委員会答申（案）」を策定する流れでございます。

以上でございます。

（委員長）

ありがとうございます。今のご説明について何かございますでしょうか。日程についてもよろしいでしょうか。

ありがとうございました。以上で本日の議題は全て終了いたしました。

（委員長）

最後に、「その他」でございます。何かございますでしょうか。

どうぞ、垣見会長。

（垣見委員）

私ども、石油、ガソリンスタンドの組合で東京の副理事長をやっている関係から、能登半島地震の状況が入ってきております。ガソリンスタンドがこれだけ被災したにもかかわらず、何とか開けて、緊急車両優先で供給しています。今私がお見せしております写真、これをよく見ていただくと神奈川消防が写っているんです。

神奈川消防も、まさかガソリン付きで持っていくわけにはいかないので、やはり地元のサービスステーションが復興しないと駄目だということでございます。

弊社は5か所のサービスステーションを運営してございますが、各サービスステーションで、緊急自動車用に1000リッター、それから軽油は500リッターを貯めております。ですので、千代田区にはないんですが、近くだと文京区本駒込にありますので、よかったですぜひ来てください。

以上でございます。

（委員長）

ありがとうございました。それでは、次回の委員会でも引き続き、答申案の審議を行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

本日はお忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございました。以上で令和5年度第2回消防団運営委員会を閉会いたします。ありがとうございました。